

令和5年度  
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の  
点検・評価報告書

令和6年9月

福井県教育委員会

# — 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	令和5年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	令和6年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和4年度実施）	13
6	令和6年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和5年度実施）	15
V	令和5年度の教育関係施策の取組実績	
1	教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果および 達成目標の進捗状況	18
2	主要事業の実施成果	25
VI	有識者からの意見	38

## I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

### [ 参 考 ]

#### 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「令和5年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

## II 点検・評価について

### 1 対象期間

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）

### 2 点検・評価方法

#### (1) 点検・評価報告書の作成

教育委員会において点検・評価報告書案を作成

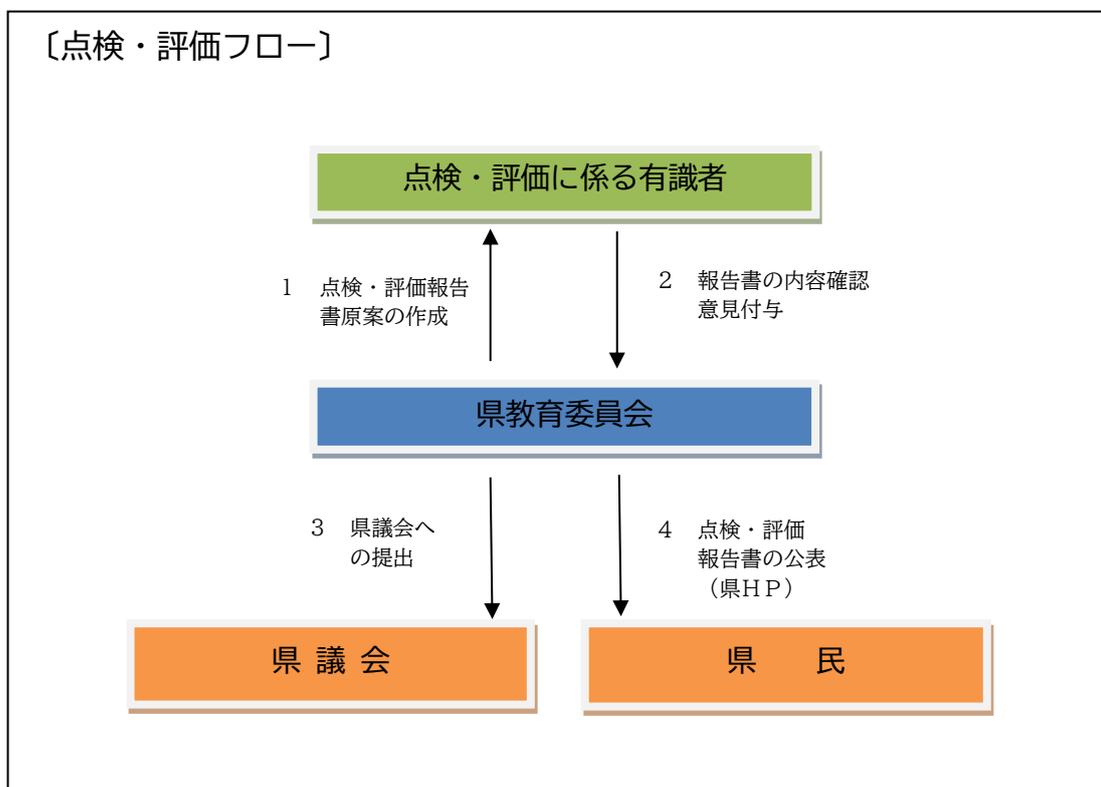
#### (2) 点検・評価報告書の確認、意見付与

有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および意見付与

#### (3) 点検・評価結果の公表

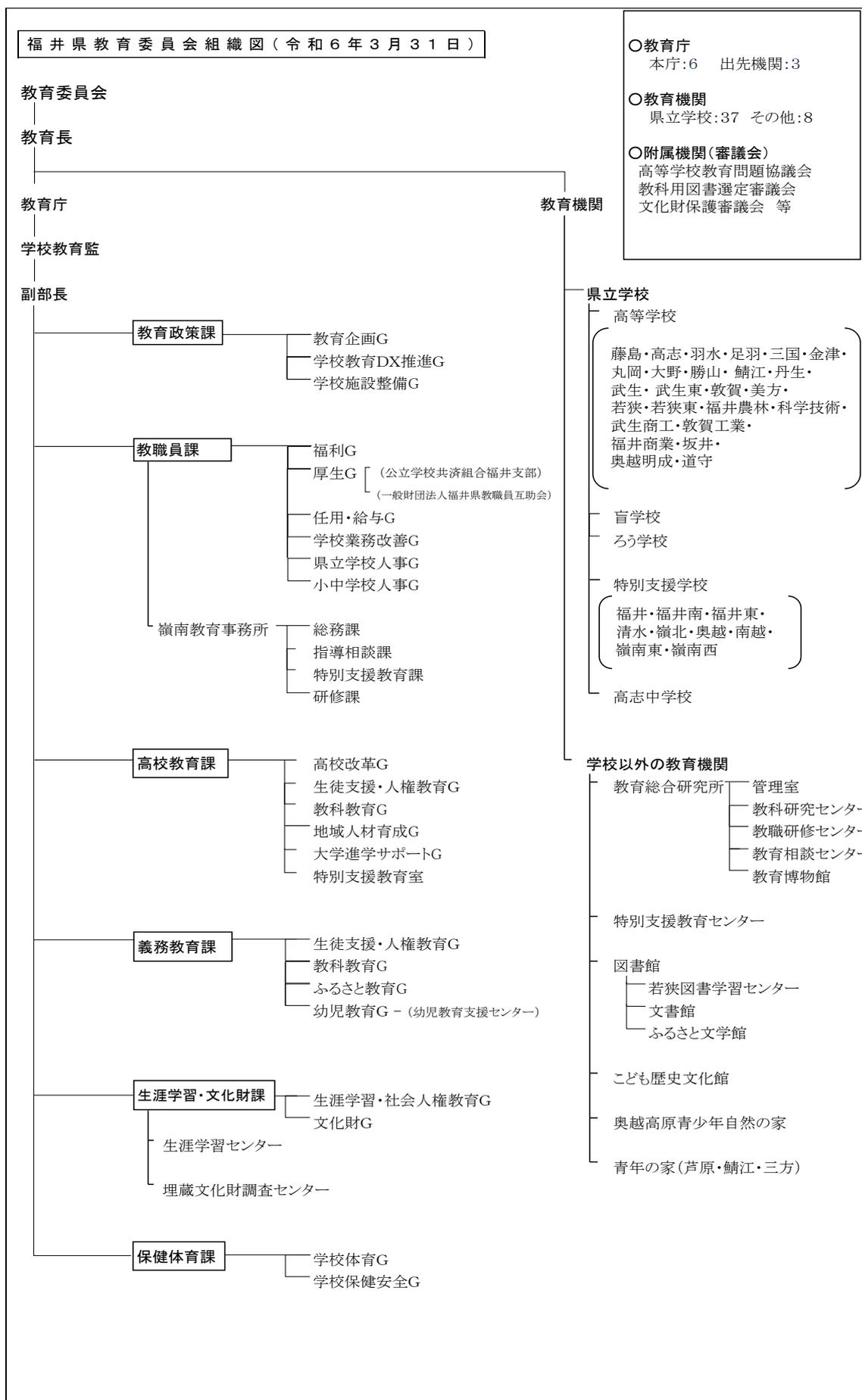
点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表

#### 〔点検・評価フロー〕



### Ⅲ 組織および決算

#### 1 組織



## 2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	2,967,437	1,498,771	1,498,771	0	50.5	100.0
教職員課	14,529,953	14,544,131	14,544,031	100	100.0	99.9
高校教育課	189,883	180,077	159,704	20,373	84.1	88.7
義務教育課	70,691	52,550	52,550	0	74.3	100.0
生涯学習・文化財課	172,692	71,562	71,562	0	41.4	100.0
保健体育課	62,287	61,755	61,755	0	99.1	100.0
計	17,992,943	16,408,846	16,388,373	20,473	91.1	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	10,498,444	8,817,138	1,502,189	179,117	84.0
教職員課	66,203,901	65,392,156	0	811,745	98.8
高校教育課	787,172	710,769	13,846	62,557	90.3
義務教育課	328,185	296,703	0	31,482	90.4
生涯学習・文化財課	1,170,153	886,319	253,674	30,160	75.7
保健体育課	184,448	165,651	0	18,797	89.8
計	79,172,303	76,268,736	1,769,709	1,133,858	96.3

#### IV 令和5年度福井県教育委員会の活動状況

##### 1 教育委員会の会議開催等の状況

###### (1) 福井県教育委員会委員

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

	氏名	職業
教育長	豊北 欽一	
委員（教育長職務代理者）	南部 隆保	会社役員
委員	原 公樹	僧侶
委員	山本 直子	法人役員
委員	森下 典子	元教員
委員	横井 康孝	会社役員

## (2) 教育委員会会議の開催状況

- ・開催回数 19回
- ・附議事項 49件

### ○第1156回（令和5年4月13日（木））

- ・教職員の懲戒処分について

### ○第1157回（令和5年4月26日（水））

- ・福井県立恐竜博物館の設置および管理に関する条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
- ・福井県立恐竜博物館の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

### ○第1158回（令和5年5月9日（火））

- ・令和5年5月22日付け機構改革に伴う福井県教育委員会行政組織規則等の一部改正について
- ・令和5年5月22日付け教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について

### ○第1159回（令和5年5月29日（月））

- ・附議事項なし

### ○第1160回（令和5年6月15日（木））

- ・令和5年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について

### ○第1161回（令和5年7月7日（金））

- ・令和6年度福井県立高等学校入学者選抜における推薦入学者選抜の実施校について
- ・令和6年度福井県立高等学校入学者選抜における特色選抜の実施校および実施種目・領域について
- ・令和6年度福井県立高志中学校入学者選抜に関する実施要項の制定について
- ・福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について

### ○第1162回（令和5年7月24日（月））

- ・令和5年8月1日付け人事異動について

- 第1163回（令和5年8月25日（金））
  - ・令和4年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
  - ・令和5年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
  - ・令和6年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
  - ・福井県立学校設置条例の一部改正について
  
- 第1164回（令和5年8月31日（木））
  - ・教職員の懲戒処分について
  
- 第1165回（令和5年9月20日（水））
  - ・令和6年度福井県公立学校教員採用選考試験採用内定者の決定について
  
- 第1166回（令和5年10月5日（木））
  - ・教職員の懲戒処分について
  
- 第1167回（令和5年10月18日（水））
  - ・令和6年度福井県立学校入学者募集定員について
  - ・令和6年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに令和6年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について
  
- 第1168回（令和5年10月27日（金））
  - ・福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
  
- 第1169回（令和5年11月17日（金））
  - ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
  - ・令和6年度教職員人事異動方針について
  - ・令和6年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
  - ・教職員の懲戒処分について
  
- 第1170回（令和5年12月22日（金））
  - ・令和6年度福井県立学校寄宿舎指導員ならびに実習助手（農業・工業）採用選考試験の採用内定者の決定について
  - ・令和6年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
  - ・令和6年度福井県公立学校再採用選考内定者の決定について
  - ・令和5年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
  - ・福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の改選について

○第1171回（令和6年1月19日（金））

- ・令和5年度ふくい優秀教職員表彰の被表彰者の決定について

○第1172回（令和6年2月1日（木））

- ・福井県公立学校情報機器整備基金条例の制定について
- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井県立美術館運営協議会委員の任命について

○第1173回（令和6年3月7日（木））

- ・いじめ調査専門委員会の委嘱について
- ・令和6年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1174回（令和6年3月15日（金））

- ・福井県文化財保護審議会委員の任命について
- ・福井県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について
- ・いじめ調査専門委員会の委嘱について
- ・懲戒処分の指針の一部改正について
- ・授業名人の任命について
- ・令和6年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・令和6年4月1日付け組織改正に伴う福井県教育委員会行政組織規則の一部改正について
- ・教職員の懲戒処分について

## 2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
令和5年 4月13日	第1156回教育委員会
4月26日	授業名人任命式、第1157回教育委員会
5月 9日	第1158回教育委員会
5月26日	福井県市町教育委員会連絡協議会総会
5月29日	第1159回教育委員会
6月15日	第1160回教育委員会
6月19日	学校訪問 (小浜市立小浜第二中学校)
6月21日	学校訪問 (鯖江高校)
6月22日	学校訪問 (羽水高校)
6月23日	学校訪問 (若狭東高校)
7月 5日	学校訪問 (鯖江市鯖江中学校)
7月 7日	学校訪問 (勝山市立成器南小学校)、福井県立恐竜博物館視察、 第1161回教育委員会
7月12日	学校訪問 (坂井市立丸岡中学校)
7月24日	第1162回教育委員会
8月 3日、4日、7日、 8日、9日	教員採用試験
8月18日	霊龍丸体験乗船、若狭高校若竹寮開寮式、総合教育会議
8月19日	第3回全国高校生プレゼン甲子園
8月25日	第1163回教育委員会、福井県教育委員会と福井県公安委員会との意見 交換
8月31日	第1164回教育委員会
9月20日	第1165回教育委員会
10月 5日	第1166回教育委員会
10月18日	第1167回教育委員会
10月23日、25日、 26日、27日	管理職任用選考試験
10月27日	第1168回教育委員会
10月28日、29日	さんフェア福井2023開会式、閉会式
11月15日	学校訪問 (南越前町立南条小学校)
11月16日	学校訪問 (嶺南西特別支援学校)
11月17日	第1169回教育委員会、学校訪問 (あわら市金津中学校)
11月20日	学校訪問 (大野市陽明中学校)
12月22日	福井県教育委員会と福井県公安委員会との意見交換、第1170回教育委 員会

令和6年 1月19日	第1171回教育委員会、都道府県指定都市教育委員研究協議会
1月29日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会等
2月 1日	第1172回教育委員会、令和5年度ふくい優秀教職員表彰式、福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰式、令和5年度福井フューチャーマイスタートップ賞表彰式
2月 3日	福井ふるさと教育フェスタ
3月 5日	北陸電力教育振興財団評議員会
3月 7日	第1173回教育委員会
3月15日	第1174回教育委員会
3月29日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

### 3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障がい児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	5. 6.9 5. 9.15 5. 12.14
福井県教科用図書選定審議会	16	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	5. 4.28 5. 5.31 5. 6. 6
福井県文化財保護審議会	15	3	会長・副会長の選出について 令和4年度の調査計画について 福井県指定文化財の指定について	審議・答申・協議・報告	5. 5.24 6. 1.30 6. 3.27

### 4 教育委員会関係の許認可の状況

#### (1) 教育職員免許状の授与等（令和5年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	27	125	19	0	32	203
中学校	35	122	1	0	6	164
高等学校	46	192	0	4	43	285
特別支援学校	1	22	59	0	9	91
幼稚園	2	74	104	0	3	183
養護教員	0	32	3	0	5	40
栄養教員	0	5	1	0	0	6
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	111	572	187	4	98	972

(2) 文化財の指定状況

令和5年度においては、新たに、県指定文化財に4件指定されました。

<指定文化財の現状>

令和6年3月31日現在

区 分		国指定		国選定	国選択	国登録	県指定
		国 宝 特 別	重 文 国指定				
有 形 文化財	建造物	2	28			236	28
	絵 画		14				85
	彫 刻		35				86
	工芸品	3	8			1	34
	書跡・典籍・古文書	1	15				22
	考古資料		5				16
	歴史資料		3				8
	計	6	108			237	279
無 形 文化財	芸 能						
	工芸技術		2				4
	計		2				4
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	10
	無形民俗文化財		5		12		65
	計		6		12	1	75
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29
	名 勝	1	14			2	7
	天然記念物	4	17			1	31
	名勝天然記念物		1				
	計	6	56			3	67
文化的景観				3			
重要伝統的建造物群保存地区				3			
選定保存技術							
合 計		12	172	6	12	241	425
		184					

### (3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおこなってまいりました。

登録証交付	45	件
登録証再交付	8	件
所有者変更	297	件

### (4) 教育委員会所管の公益法人

19法人（令和6年3月31日現在）

（公益財団法人10 一般財団法人8 一般社団法人1）

## 5 令和6年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況（令和5年度実施）

### (1) 県立高等学校

課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次学力検査合格者のうち、帰国子女等受験者と追検査受験者を除く教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦選抜によるもの	551(579)		551(579)
特色選抜によるもの	437(434)		437(434)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	84(85)		84(85)
外国人生徒等特別選抜によるもの	13(13)		13(13)
第1次学力検査によるもの※	3,231 (3,433)	200(162)	3,431(3,595)
第2次学力検査によるもの	60(48)	23(32)	83(80)
計	4,376 (4,592)	223(194)	4,599(4,786)
募集定員	4,663 (4,717)	350(350)	5,013(5,067)
充足率	93.8%(97.4%)	63.7%(55.4%)	91.7%(94.5%)

※第1次学力検査によるものには追検査の合格者数を含む。

表2 教科別の平均点

	選択問題A	選択問題B
英 語	36.2(51.5)	62.6(60.0)
数 学	44.9(55.8)	63.7(55.5)
	共通	
国 語	63.7(60.2)	
社 会	47.2(61.9)	
理 科	54.3(45.9)	
総 点	188.0(223.1)	315.2(304.4)

※英語および数学は大問4～6のうち1～2問を次の2種類の選択問題として実施  
 A：基礎力を問う設問の割合が多い問題 【選択した合格者 912人】  
 B：記述・論述型の設問の割合が多い問題 【選択した合格者2,296人】

(2) 県立中学校

平成27年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表3のとおりです。また、適性検査等の結果は表4のとおりです。

表3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	273	270	90

表4 適性検査等の結果

	配点	平均点
適性検査Ⅰ	100	37.5
適性検査Ⅱ	100	32.2
適性検査Ⅲ	100	55.2
面 接	50	32.9
合 計	350	157.8

## 6 令和6年度公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和5年度実施）

### 第1次選考

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和5年7月1日（土） 一般・教職、教科等専門（小学校、中学技術、高校各科、養護教諭、栄養教諭）	福井県立羽水高等学校 （福井市羽水1丁目302） （公益財団法人）都道府県センター （東京都千代田区平河町2-6-3）
令和5年7月2日（日） 教科等専門（中高一括、特別支援学校）	福井市木田小学校【中高音楽実技】 （福井市木田1丁目1360）

### 第2次選考 および 特別選考

#### 試験期日および場所

期 日 等	場 所
令和5年8月3日（木） 【第2次選考】適性検査、小論文 （※適性検査はオンライン実施） 【特別選考】 令和6年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 教育エキスパート特別選考 個人面接等	福井県立羽水高等学校 （福井市羽水1丁目302）
令和5年8月3日（木）～4日（金） 8月7日（月）～9日（水） 【第2次選考】個人面接	

### 《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保および選考過程の透明性・公平性を図るため、次のような改善を行いました。

#### ○ 優秀な人材の確保

<平成18年度から実施>

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

<平成19年度から実施>

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

<平成20年度から実施>

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

<平成21年度から実施>

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

<平成23年度から実施>

- ・スポーツ特別選考の実施

<平成25年度から実施>

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

<平成27年度から実施>

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
③グローバル教育特別選考

<平成28年度から実施>

- ・特別選考の見直し①スポーツ・芸術特別選考  
②教育エキスパート特別選考  
    専門教育分野  
    英語教育分野

<令和元年度から実施>

- ・障がい者特別選考の受験資格拡大
- ・介護を理由に退職した教員の再採用を実施

<令和2年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度を導入  
（他都道府県国公立学校正規勤務経験者または県内国公立学校勤務講師対象）
- ・第1次選考の一般教養と教職専門の筆記試験を一般・教職に一本化
- ・第2次選考の「集団討論」を廃し「個人面接」を2回に変更

<令和3年度から実施>

- ・スポーツ・芸術特別選考を教育エキスパート特別選考に移行

<令和4年度から実施>

- ・加点制度の拡充  
（①複数教員免許状所持による加点、②司書教諭資格者による加点）

<令和5年度から実施>

- ・第1次選考全部免除制度の拡充  
（県内講師等経験者（60月以上経験者）対象）
- ・大学3年時第1次選考の導入
- ・「東京会場」の設置（※第1次選考）

○ 受験者に対する情報の提供

<平成20年度から実施>

- ・ 2次選考の不合格者に対して、成績を A、B、C の三段階で通知
  - ・ 試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）の実施
  - ・ 個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
    - 1次選考および2次選考における筆記試験、実技試験、作文および面接の点数
  - ・ 筆記試験、実技試験、作文および面接の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
  - ・ 1次選考合格者および最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表
- <平成21年度から実施>
- ・ 判定基準をホームページで事前発表
  - ・ 解答例および設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
  - ・ 不合格者のうち希望者に、筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知
- <平成26年度から実施>
- ・ 不合格者全員に筆記試験、実技試験、作文および面接の各点数ならびに合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

- <平成20年度から実施>
- ・ 改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検を実施
  - ・ 民間有識者による選考手順や選考内容の点検および抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合を実施
- <平成21年度から実施>
- ・ 実技試験において、受験番号にかわり整理番号を使用
- <平成24年度から実施>
- ・ 電子申請による受付を導入
- <平成26年度から実施>
- ・ 一般教養試験において、マークシート方式を導入
- <平成27年度から実施>
- ・ 小学校筆記試験において、外国語のリスニングテストを導入
  - ・ 一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入
- <令和2年度から実施>
- ・ 小学校の試験において、外国語リスニングおよび実技試験を廃止
  - ・ 外国語資格における加点対象を拡大
- <令和5年度から実施>
- ・ 出願手続きを電子申請に一本化

## V 令和5年度の教育関係施策の取組実績

### 1 教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果および達成目標の進捗状況

#### 方針1：学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成

- ・児童生徒の理系分野への興味関心を高め、理系人材を育成するため、「小学生向けサイエンスショー」や「算数なぞとき教室」、「中学生向けの理系分野に関するキャリア教育」を開催（R5～）  
〔義務教育課〕
- ・理数教育を推進し、理系人材を育成するために、「ふくい Girls 未来のテックリーダー」プロジェクトを実施。科学者・技術者を目指す女子生徒32名がグローバルIT企業の訪問およびプログラミング講座を受講する首都圏研修に参加（R5～）〔高校教育課〕
- ・「引き出す・楽しむ教育」を推進するため、各小中学校が重点的に取り組むテーマを設定し実践するとともに、教員、関係機関による意見交換会、テーマに応じた研修等を開催（R2～）  
〔義務教育課〕
- ・福井県学校教育DX推進計画に基づく、新たなデジタル時代に対応した学びの変革と教員の働き方改革の実現に向けて、全教員対象の講演会を開催。県立学校に生成AIの利用環境を整備（R5～）  
〔教育政策課〕
- ・学校教育DXにかかる地域・学校間格差を解消するため、広域的な課題解決に向けた協議や技術情報の共有を行うとともに、ICT教育サポートセンターを開設。学校・教員に対するDX進捗状況調査（年2回）等による定期的に評価を実施（R5～）  
〔教育政策課、教職員課〕
- ・全小中学校の約2割の47校をICT教育推進モデル校に指定。デジタル教科書を1教科導入し、情報交換会および公開授業を実施。（R5～）  
〔義務教育課〕
- ・4月に丸岡高校において酸素カプセルを整備。スポーツ探究コースの生徒60名全員が体験するとともに、疲労回復・怪我の回復・集中力の効果などについて探究学習を実施（R5～）  
〔高校教育課、教育政策課〕
- ・併設型中高一貫教育校である高志中学校において、生徒の興味関心を引き出すための大学訪問や校外学習を実施するとともに、連携型中高一貫教育校において、高校教員によるチームティーチングによる授業や外部講師による探究学習の支援を実施（R5～）  
〔高校教育課〕
- ・高校生の探究的な学びの支援を充実させるため、合同発表会（高校生探究フォーラム）を県内3会場で開催するとともに、探究系全国大会に挑戦する生徒4件、活動資金を獲得するクラウドファンディングの申請3件を支援（R5～）  
〔高校教育課〕

- ・令和6年度入試において地域みらい留学2期生として若狭高校6名、丸岡高校5名の合格者を選考。更なる県外生徒受入れのため、若狭高校の寮を整備するとともに、丸岡高校と若狭高校の寮整備について民間提案型による契約を締結（R4～）

〔高校教育課、教育政策課〕

- ・勝山市教育委員会と勝山高校が勝山市立中学校再編準備委員会等において中高連携の具体的な方策を検討するとともに、勝山市立中学校による勝山高校敷地内での共同利用に向けた施設整備について、勝山市との検討会を定期実施（R5～）

〔高校教育課、教育政策課〕

- ・生商工高校の令和7年度の1キャンパス化に向け、2階建の体育館と新商業棟の新設に着工するとともに、管理・普通教棟改修に着工（R4～）

〔高校教育課、教育政策課〕

- ・地域産業の担い手育成を目的とした、文部科学省の「マイスター・ハイスクール」事業において、民間人教頭を招聘し新技術やDX等の産業構造の変化に対応した職業人材育成と魅力あるカリキュラムを実施。地域の企業やまちづくり団体と連携した加工食品の開発・販売等を実施（R4～）

〔高校教育課〕

- ・大学進学サポートセンターにおいて、生徒の進路志望に合わせた集合型補習を学年ごとに実施。また、オンライン学習会等を教科別に合計58回実施し、延べ269名が参加（R2～）

〔高校教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
授業がわかる児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査、高校生学習状況調査)	小学校 国語：90.6%	-	90.20%	89.70%	91.50%	90%
	算数：88.5%	-	87.70%	85.90%	87.4%	90%
	中学校 国語：84.7%	-	85.30%	88.20%	86.5%	85%
	数学：78.5%	-	74.60%	81.20%	78.3%	80%
	高校 国語：85.5%	87.10%	84.90%	86.50%	87.5%	90%
	数学：75.1%	77.00%	74.20%	76.50%	76.3%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小学校：80.5%	-	81.30%	79.70%	81.8%	85%
	中学校：78.2%	-	81.50%	82.30%	83.8%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
学習者用コンピュータ1台当たりの児童生徒数 (学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	小学校： 6.7人/台	6.4人/台	1.3人/台	0.9人/台	0.8人/台	1人/台
	中学校： 4.8人/台	5.0人/台	1.3人/台	0.9人/台	0.8人/台	1人/台

	高 校： 3.7 人/台	3.7 人/台	0.8 人/台	0.8 人/台	0.8 人/台	3 人/台
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2023]	
教員が授業中に ICT を活用して指導する能力 (学校における教育の情報化の実態等に関する調査)	71.8% [2018]	70.50% [2019]	69.20% [2020]	73.7% [2021]	76.1% [2023]	85%
園内リーダー認定者がいる園の割合	84% [2018]	86% [2019]	86% [2020]	89% [2021]	90% [2023]	90%

## 方針 2：適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進

- ・令和 6 年度に開催される第 4 4 回近畿高等学校総合文化祭福井大会の実施に向けて、教員・生徒による先催県大会（三重県）の視察を実施するとともに、大会テーマ、ポスター原画、イメージソングを決定（R5～）〔高校教育課〕
- ・トップアスリートを目指す小学 5・6 年生 59 人を対象にアスリート育成プログラムを提供する「ふくいジュニアアスリートアカデミー」を開催。うち 3 名が新しい競技を開始（R2～）〔スポーツ課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
県立音楽堂で本物の文化芸術を体験する子どもの数	16,521 人 [2018]	23,364 人 [2019]	7,207 人 [2020]	12,382 人 [2021]	8,312 人 [2023]	17,000 人
競技スポーツの全国大会での上位入賞数 (1～3 位) (福井県スポーツ協会正加盟競技の大会)	290 件 [2018]	130 件 [2019]	188 件 [2020]	189 件 [2021]	249 件 [2023]	100 件
公認スポーツ指導者新規登録数	87 名 [2018]	94 名 [2019]	90 名 [2020]	350 名 [2021]	451 名 [2023]	100 名

## 方針 3：豊かな心、健やかな体の育成

- ・児童生徒の豊かな感性・創造性と、教員の鑑賞力・指導力の育成のため、「福井県俳句創作コンクール」を開催。小中高校から 8,038 句の応募。（R4～）〔義務教育課〕
- ・休日の部活動の段階的な地域移行について、休日に活動する約 770 部活動のうち、約 4 分の 1 に当たる 189 部活動が地域に移行（R4～）〔保健体育課、義務教育課〕

- ・学校歯科医の適切な指導の下で、教員の業務負担とならない適切な「フッ化物洗口」の実施方法を、学校・保護者・児童に説明会を行い、モデル校6市町10校の小学校において約1000人を対象に検証。(R5～) [保健体育課]

[達成目標]

[ ] 内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校：84.3%	-	80.60%	82.50%	85.80%	85%
	中学校：78.7%	-	78.10%	81.80%	83.10%	80%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
ふだん読書をしない小・中・高校生の割合 (全国学力・学習状況調査、高校生学習状況調査)	小学校：15.5%	-	23.60%	25.90%	24.60%	15%以下
	中学校：32.1%	-	36.50%	37.70%	37.80%	30%以下
	高校：43.8%	45.80%	45.00%	45.00%	46.30%	40%以下
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	小学校：91.7%	-	89.00%	90.30%	90.8%	93%
	中学校：87.8%	-	84.45%	85.30%	84.86%	89%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
朝食を毎日食べている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校：88.4%	-	96.00%	95.90%	95.60%	100%
	中学校：84.7%	-	94.70%	94.20%	93.10%	100%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	

#### 方針4：国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成

- ・文部科学省をはじめ新たな協賛・後援を受け、6～8月に「全国高校生プレゼン甲子園」を開催。地域ブロック大会を導入し、616チーム（県内353、県外263）、97校（県内23、県外74）が参加。(R3～) [高校教育課]
- ・高校生が海外の大学生と交流する「オンライングローバルキャンプ」を、3月に4日間の日程（25～28日）で実施し、12名が参加（R5～） [高校教育課]
- ・受験料を全額補助し、GTECを中学3年生6,450名が受験。結果分析を行い、生徒の英語力・学習意欲の向上と教員の授業改善のため、動画を配信するとともに、県内5ブロックにて研修を開催。各校の英語科教員1名以上が参加。(H28～R1：英語検定、R2～：GTEC) [義務教育課]

[達成目標]

[ ] 内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
英検3級相当以上の英語力を持つ中学3年生の割合 (英語教育実施状況調査)	61.2% [2018]	61.40% [2019]	- [2020]	85.8% [2021]	83.8% [2023]	65%

英検準2級相当以上の英語力を持つ高校3年生の割合 (英語教育実施状況調査)	56.0% [2018]	58.40% [2019]	- [2020]	59.6% [2021]	61.1% [2023]	60%
スピーキングテストおよびライティングテストを実施している学校の割合 (英語教育実施状況調査)	中学校：95.0%	91.90%	-	100%	100%	100%
	高校：53.7%	55.80%	-	52.2%	74.1%	80%
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2023]	

### 方針5：特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備

- ・不登校の児童生徒の社会的自立や集団への適応を支援するため、不登校児童生徒の多い小学校3校および中学校2校に支援員を配置（R4～）〔義務教育課〕
- ・嶺南教育事務所指導主事とろう学校教員が連携して、嶺南地区聴覚障がい児に対する教育相談を年間130回実施するとともに、嶺南地域の教員を対象とした言語聴覚士による研修会を年間12回実施（R4～）〔高校教育課〕
- ・遠隔ロボットやVRゴーグルを活用により、病気療養中や発達障がい等のある児童生徒の学習環境の改善や教育効果の向上を図る。関係学校や市町教育委員会向けの説明会や研修等を行うとともに、対象児童生徒の授業等で計72回の使用実績や成果等を蓄積・分析（R4～）〔高校教育課〕
- ・外国人児童生徒等教育連絡協議会を年3回実施し計94名が参加。小学校4件、中学校5件に対して日本語指導アドバイザーによる相談支援を実施（R4～）〔義務教育課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R2	R3	R4	直近	目標
通常の学級で個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、作成された割合 (特別支援教育体制整備状況調査)	81.3% [2019]	84.30% [2020]	86.90% [2021]	91.10% [2022]	92.70% [2023]	90%
特別支援学校教諭免許状を有する特別支援学級担当教員の割合 (学校基本調査)	57.5% [2019]	56.30% [2020]	53.40% [2021]	55.10% [2022]	57.00% [2023]	60%
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校：88.4%	-	87.50%	88.70%	87.80%	90%
	中学校：84.9%	-	84.30%	87.30%	84.90%	85%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）	小学校：3.1%	8.00%	8.66%	8.90%	10.70%	低下させる
	中学校：9.1%	10.60%	8.29%	8.50%	15.80%	
	高校：14.1%	8.20%	10.20%	9.87%	9.18%	
	[2018]	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	

## 方針6：ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- ・児童生徒が自らの地域を探究し、地域の魅力を発信する活動を推進するため、「福井ふるさと教育フェスタ」を開催。ふるさと学習の展示・発表や関連事業の優秀作品や入賞者を表彰（R1～）  
〔義務教育課〕
- 「ふるさと福井CMコンテスト」を開催し、74校が応募、CM作成講習会に1142名が参加。「ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会」は中学生に拡充して開催し79校が応募。「ふるさとの学び特別賞」として小中学校計14校を表彰（R3～、「ふるさとの学び特別賞」はR4～）  
〔義務教育課〕
- ・10/28, 29に県内6会場にて全国産業教育フェアを開催。延べ25,000人超が参加し、各会場のライブ配信は15,000回を超える視聴。全国高校生ビジネスアイデアコンテストは全国から89チームがエントリー（R5～）  
〔高校教育課〕
- ・職業系高校において、地域の産業や企業について学ぶ本県独自の共通科目「ふくい産業」を16回実施。プレゼンテーションにおけるデジタル資料作成や発表技法等を学ぶ「デジタル教育講座」を5回実施。これらの教材動画をアーカイブ化し、動画をデジタル教材として活用（R3～）  
〔高校教育課〕
- ・文化財修理の適切な実施と、所有者応援の体制を構築する「福井の文化財を未来へプロジェクト」を開始。技術者向け研修会に計58人が参加。敦賀市西福寺と福井市大安禅寺で文化財をデジタルアートで演出するイベントを開催し、延べ約850人が参加（R5～）  
〔生涯学習・文化財課〕

〔達成目標〕

□ 内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校：58.7%	-	55.80%	54.90%	-	60%
	中学校：44.7%	-	47.10%	46.30%	-	45%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
将来の夢や希望(目標)を持っている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査、 高校生学習状況調査)	小学校：88.4%	-	82.90%	83.20%	83.90%	90%
	中学校：74.2%	-	71.20%	70.30%	68.70%	75%
	高校：73.5%	75.90%	78.10%	75.60%	74.70%	75%
	[2019]	[2020]	[2021]	[2022]	[2023]	
県内企業に就職した高卒者の3年以内の離職率	34.9% [2018]	33.5% [2019]	32.7% [2020]	34.80% [2021]	35.40% [2022]	低下させる
県内高卒生が県内に就職した割合(新規高等学校卒業者の就職状況に関する調査)	91.6% [2019]	91.27% [2020]	90.76% [2021]	90.43% [2022]	91.12% [2023]	9割を維持
文化財出前授業・講座の参加者数	—	721人 [2020]	617人 [2021]	846人 [2022]	926人 [2023]	1,000人 (累計)

## 方針 7：生涯にわたる学びの支援

- ・SDGsの目標に向けて、地域清掃や環境学習、世代間交流事業を各団体（海洋少年団、壮年団、子ども会、ガールスカウト、ボーイスカウト、「小さな親切」運動）が実施し、22件・約1400人が参加（R3～）〔生涯学習・文化財課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R2	R3	R4	直近	目標
福井ライフ・アカデミー受講者の満足度	—	95% [2020]	96% [2021]	97% [2022]	96% [2023]	80%
社会教育士の資格を取得した者の数	—	44人 [2020]	49人 [2021]	39人 [2022]	20人 [2023]	80人 (累計)
県立図書館の年間貸出冊数	949,077冊 [2018]	816,079冊 [2020]	885,842冊 [2021]	874,344冊 [2022]	821,689冊 [2023]	95万冊

## 方針 8：新たな時代を見据えた教育環境の整備

- ・校務全般におけるDXの推進、学校運営支援員や部活動指導員の配置・増員、県教委が行う学校への調査の見直し、スクールロイヤーの体制整備等により、教員の一層の業務改善を推進（R2～）〔教職員課〕
- ・令和5年度の全教職員に占める月80時間以上の超過勤務者の割合は、昨年度0.6%から0.4%に減少、同じく月45時間以内の超過勤務者は昨年度65.1%から70.0%に向上（R2～）〔教職員課〕
- ・教員志願者を確保するため教員採用選考試験を見直し、講師等5年以上経験者の第1次選考を免除（利用者56名）、大学3年時第1次選考の導入（志願者168名）、東京会場での第1次選考（利用者51名）等を実施（R5～）〔教職員課〕
- ・子どもとの関わり方を学び合うための親のまなびあいプログラム集「親はびトーク」を作成し、その活用のための研修会や学習会を9回実施し計80名が参加〔義務教育課〕
- ・県立学校の大規模改修工事について、設計3校（金津、勝山（体育館）、敦賀工業）と工事3校（三国、武生、武生商工）が完了（R4～）〔教育政策課〕

〔達成目標〕

〔〕内は年次

名称	策定前	R 2	R 3	R 4	直近	目標
時間外勤務月 80 時間以上の 教員の割合	12% [2018]	4.4% [2020]	1.2% [2021]	0.6% [2022]	0.4% [2023]	0% [2021]
教員採用試験志願倍率	3.7 倍 [2020]	4.1 倍 [2021]	3.5 倍 [2022]	2.8 倍 [2023]	2.8 倍 [2024]	4.0 倍
保護者や地域の人が学校の諸 活動に参加していると回答し た学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校：100 %	-	97.30%	96.10%	97.30%	100%
	中学校：88.5%	-	81.70%	84.20%	82.50%	
公立学校施設の長寿命化計画 の策定率	22% [2018]	89% [2020]	100% [2021]	100% [2022]	100% [2023]	100%
県立学校（普通教棟）のトイ レの洋式化率	53% [2018]	83% [2020]	93% [2021]	93% [2022]	93% [2023]	90%
防災専門家のアドバイスを受 け、危機管理マニュアルを見 直した学校の割合	41% [2018]	55% [2020]	65% [2021]	78% [2022]	86% [2023]	100%

## 2 主要事業の実施成果

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(1) 次世代につなぐ美しい県立学校施設整備事業				教育政策課
[事業目的]	県立学校の長寿命化を進め、時代に即した学習環境を備える学校を整備するため、計画的にリノベーション工事等を実施する。			
[事業内容]	建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,466,891		1,319,000	147,891
[事業の目標 および効果]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校 3 件の大規模改修工事を実施した。</li> <li>・高等学校 3 件の設計を実施した。</li> <li>・高等学校 4 校 4 教室の空調設備更新工事を実施した。</li> </ul>			
[事業評価]	学校施設の大規模改修工事を実施し、屋上防水や外壁改修など長寿命化を進めた。また、断熱性の確保により省エネ化を図る改修など、時代に即した学習環境を整備するとともに、空調設備更新工事を実施した。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(2) 新たな部活動指導体制推進事業				教職員課
[事業目的]	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置</li> <li>・部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	73,958	10,190		63,768
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	部活動指導員の配置校数	100 校	65 校
	成果 指標	時間外在校等時間月 80 時間 以上の職員数	0 人	延べ 320 人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職教員等の部活動指導員を中学校 40 校、高等学校 25 校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。</li> <li>・一方、部活動指導員の外部人材の確保が難しく、未配置の学校もあることから、今後も外部人材の確保に努め、教員の時間外在校等時間を削減していく。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(3) 引き出す教育・楽しむ教育実践事業				教職員課	
[事業目的]	ICT等の先端技術を活用した学びを楽しむ授業づくりや子どもの興味・関心を引き学習意欲の向上に繋げるクラブ活動の実践に向けた研究に取り組む教員グループの活動を支援するとともに、自主的な研究活動を支援し、教員の指導力向上を図る。				
[事業内容]	① 先端技術活用研究への支援                      ④ 授業実践研究への支援 ② 小学校クラブ活動への支援                      ⑤ 教職大学院派遣教員への支援 ③ 若手教員学習会への支援				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	2,117		2,117	
	②	528		528	
	③	2,110		2,110	
	④	6,970		6,970	
	⑤	2,115		2,115	
	計	13,840		13,840	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	交付決定件数	110件	96件	
	成果 指標	学習支援システム への掲載数	25本	31本	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術活用研究11グループ、小学校クラブ活動11グループなど、96グループの自主的な研究グループの活動を支援したが、小学校クラブ活動や若手教員学習会の申請が少なかったことから目標件数には到達しなかった。</li> <li>学びを楽しむ授業づくりを推進していくため、申請が少ない研究活動は募集件数を見直すとともに、教員の取組意欲が高い授業名人をリーダーとする授業実践研究グループの募集件数を増やしていく。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(4) 地域の普通科系高校魅力向上支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒主体の教育活動など学校改革に取り組み、生徒から選ばれる県立高校づくりを推進する。				
[事業内容]	・地域みらい留学による県外生徒の募集				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
		5,342	2,387		2,955
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	地域みらい留学実施校	2校	2校	
	成果 指標	地域みらい留学を利用して 県立高校に入学した生徒数	11名	9名	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>若狭高校および丸岡高校において積極的に各校の魅力を発信し、地域みらい留学による入学者は9名となったが、目標人数には到達しなかった。</li> <li>7年度からは丸岡高校に寮が設置されることをアピールし、6年度実施の入試への出願につなげる。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(5) 生徒の進学希望実現支援事業				高校教育課	
[事業目的]	生徒の特性・興味・関心にあった進路選択を行えるよう各学年段階において支援を行うほか、生徒の進学希望を実現するために、高校における進学指導体制や生徒への受験対策を強化する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学者の多い県立高校を対象に、大学進学希望者に対する受験対策を支援</li> <li>・新生と保護者のための大学進学セミナーの実施</li> <li>・「福井県大学進学サポートセンター（現役生対象）」の設置</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	4,121				4,121
[事業の目標 および効果]	内 容			目標	実績
	活動 指標	大学進学サポートセンター 登録者数		100人	273人
	成果 指標	国公立大学合格者率		24.5%	27.8%
[事業評価]	県立高校の卒業生数に対する国公立大学の合格者数の割合（27.8%）は、確認できる平成20年度以降過去2番目に高い合格率であり、多くの生徒の進路志望実現支援が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(6) 英語力向上事業				高校教育課	
[事業目的]	国際社会で求められる英語力について、生徒が自身の英語力を把握するための一助として、外部検定試験やオンライン英会話等を活用し、英語学習に対する意欲向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の大学生とのオンライン英会話を実施</li> <li>・民間事業者による外部検定試験の受験料を支援</li> <li>・福井県英語ディベート大会を開催</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	19,750		1,200	978	17,572
[事業の目標 および効果]	内 容			目標	実績
	活動 指標	中高英語教員対象研修 会実施回数		8回	8回
	成果 指標	高校卒業時に求められる 英語力達成率		55%	61.1%
[事業評価]	外部検定試験の受験料補助や、職業系高校におけるオンライン英会話などを通して、生徒の実践的な英語力の向上と英語学習に対する意欲の促進を図ることができた。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(7) ⑧ 高校生次世代理系人材育成プロジェクト				高校教育課
[事業目的]	高校生および教職員を対象としてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の成果普及と支援を行い、理系人材の育成を図る。			
[事業内容]	① SSH校等に対し、サマープログラムやゼミ講習、生徒研究支援を実施 ② 教科「情報」の教員免許認定講習による高校指導者の養成			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	4,034		4,445	△411
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	研究公募への応募数	12件	8件
	成果 指標	全国規模の科学研究コンテストの受賞数	2件	2件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究公募への応募者数は、研究応募に対する情報提供が不十分であったため、目標件数に到達しなかった。</li> <li>サマープログラム、ゼミ講座の参加者数を拡充することで、研究への興味関心を持つ生徒の数を増やし、研究公募への参加を促す。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(8) 未来の産業教育ブーストアップ事業				高校教育課
[事業目的]	県立高校の職業系学科において、企業や大学と連携した実習や研究により、地域産業を牽引できる人材の育成や、県内外の中学生から選ばれる魅力的な学校づくりを行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・大学と連携した共同研究や商品開発を実施</li> <li>企業の人材や施設・設備を活用した最先端技術の学習・実習を実施</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	13,038	13,038		
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企業技術者等による授業数	75回	104回
	成果 指標	商品化・実用化された取組み数	6件	6件
[事業評価]	企業や大学と連携した共同研究や商品開発の取り組みを実施することで、地域産業を牽引できる人材の育成が図られ、学校の魅力を地域に発信している。			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(9) 福井フューチャーマイスター事業				高校教育課	
[事業目的]	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき、認定を行う福井フューチャーマイスター制度を実施</li> <li>専門資格の取得を支援（補助率 2/3【一般資格は 1/2】）</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	8,925		116		8,809
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	高度技術者による講座数	52 回	51 回	資格試験の受検希望者がいなかったため、1 講座を中止
	成果 指標	福井フューチャーマイスター認定率	87.4%	82.8%	認定を目指す生徒の増加に対し、認定数が少なかったため
[事業評価]	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(10) 特別支援学校キャリア教育推進事業				高校教育課	
[事業目的]	農業体験など地域との連携・協働により、特別支援学校児童生徒の就労・学習意欲や職業スキルを向上させるなどキャリア教育を推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業法人等による技術指導や校外での農業体験実習を実施</li> <li>生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額		国庫	その他特定財源	一般財源
	1,693				1,693
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	農業体験活動参加生徒	120 人	204 人	
	成果 指標	農業体験実習受入企業等数	9 社	9 社	
[事業評価]	農業体験実習や技能検定の実施により、特別支援学校生徒の技能向上や就労の促進が図られている。				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(11) 特別支援教育DX事業				高校教育課
[事業目的]	ICT機器を活用して学習環境を改善し、病気療養中の児童生徒の学習意欲の向上や心理的な安定を図る。 発達障がい等のある児童生徒のソーシャルスキルの向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔ロボットの継続的活用</li> <li>発達障がい支援VR機器の活用</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	973			973
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	VR 機器を活用 した授業時間	90h	72h
	成果 指標	—	—	—
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気療養中の児童生徒が病室から授業に参加することで学習意欲が向上されるとともに、心理的な安定が図られている。</li> <li>高校における通級による指導ではVRゴーグルを使用し具体的な対人場面等を体験練習することで、ソーシャルスキルアップが図られている。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(12) ふるさと教育推進事業				義務教育課
[事業目的]	児童生徒が自らの地域について学習したことを基に課題を見出し、その課題解決や地方創生に向けて他者へ発信する活動を通して、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会の開催</li> <li>ふるさとCMを作成するための経費を助成 (1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2)</li> <li>「ふるさと福井CMコンテスト」の開催</li> <li>福井ふるさと教育フェスタの開催 小中学生によるふるさと教育の活動成果のステージ発表 小中学生のふるさと学習の成果に関するパネル展</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	6,534		510	6,024
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	参加団体数	102 団体	133 団体
	成果 指標	地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える児童生徒の割合	75%	75.3%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション大会(16団体)、CMの作成(小学校51校、中学校23校)、教育フェスタ(43団体)を実施し、ふるさと福井の魅力を発信できる人材の育成を図った。</li> <li>福井ふるさと教育フェスタの開催などイベントや活動を実施し、ふるさと福井への誇りや愛着を育てていく。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(13) 芸術教育推進事業				義務教育課	
[事業目的]	学校教育を通じて、音楽や美術など芸術面における体験活動を充実し、児童生徒の感性や表現力の向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高校の吹奏楽部に対し演奏家などの派遣や、全国大会に出場するための旅費などを支援</li> <li>・小中学校、高校の弦楽奏者に対し、プロ奏者の派遣や合同発表会を開催</li> <li>・東京藝術大学の教授などを講師として招き、中学校、高校の美術部員を対象に研修会を開催</li> </ul>				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	10,671			10,671	
[事業の目標 および効果]	内 容		目標	実績	
	活動 指標	吹奏楽講師の派遣回数	108回	95回	
	成果 指標	全国大会入賞校数	6校	7校	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動が地域クラブ活動に移行したことにより、本事業を活用しない学校があった。</li> <li>・全国大会（東日本学校吹奏楽大会）では、中高いずれの部門でも金賞を受賞した。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）					
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成					
(14) スクールカウンセラー配置事業				義務教育課	
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。				
[事業内容]	教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー92名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連携・支援チームの構築・支援				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	133,069	44,357		88,712	
[事業の目標 および効果]	内 容		目標	実績	
	活動 指標	相談件数	－	38,119件	
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	－	23.4人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの配置時間の増や研修会の実施により教育相談体制の強化を図った。</li> <li>・今後も児童生徒や保護者を支援するために体制の強化を続けていく。</li> </ul>				

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(15) スクールソーシャルワーカー配置事業			義務教育課	
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、虐待等の課題を抱える児童生徒の支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー26名を配置</li> <li>・問題を抱える児童生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境を改善</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	32,146	10,707		21,439
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	相談件数	－	729件
	成果 指標	1,000人あたりの不 登校児童生徒数	－	23.4人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所や警察などの関係機関と連携し、児童生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。</li> <li>・今後もスクールソーシャルワーカーの配置時間の増や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(16) 地域文化部活動体制整備事業			義務教育課	
[事業目的]	5年度以降の休日の文化部活動について、国が示す改革推進期間（5～7年度）において、着実に地域へ以降し、地域において持続可能な生徒の文化活動の機会を確保する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区レベルで、指導者の派遣管理、学校や文化施設との連絡調整・安全管理等を行うコーディネーターを配置</li> <li>・地域文化クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実のため、持続可能な運営に向けた体制整備や質の確保に係る取組等を支援</li> <li>・休日の地域クラブ活動において、子どもたちに実技指導する者を配置</li> <li>・県内有識者等による検討会を開催し地域クラブ活動の在り方を検討</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,193	1,511		682
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	地域移行に取り組む 市町数	4地域	4地域
	成果 指標	休日の活動を地域に 移行した部活動数	17部	13部
[事業評価]	移行を予定していた一部の部活動において、休日に活動を行わないこととなった。当該部活動に所属する生徒の希望者は、地域のクラブ活動に参加しており、地域における生徒の受入環境の整備が進んでいる。			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(17) 英語力向上事業			義務教育課	
[事業目的]	グローバル社会で求められる英語力について、その学習状況を把握する一助として外部検定試験を活用し、本県生徒の英語力、英語学習に対する意欲向上を図る。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の外国語活動や外国科の授業等に、県内在住の英語を話せる人材を派遣</li> <li>・中学3年生に対し、GTEC等の外部検定試験受験料を年1回全額補助</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	35,801	226		35,575
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	中学3年生の外部検定試験受験者の割合	90%	92.9%
	成果 指標	中学卒業時にCEFR A1以上の英語力を持つ生徒の割合	65%	83.8%
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全ての公立中学校3年生を対象に、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の英語力を測定できる外部検定試験GTECの受験料支援を実施した。</li> <li>・結果分析資料等を基に、教員対象研修を集合型と動画配信型で行い、生徒の学習改善と教師の指導改善を図った。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(18) 子どもの読書活動推進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくりのために、家庭、地域、学校において子どもの読書活動を推進する。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・地域・学校等における読書活動の推進</li> <li>・推奨図書小冊子の作成、ジュニア司書養成講座、子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座 等</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,348			3,348
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	講座等の開催回数	20回	20回
	成果 指標	県立図書館における推奨図書の貸出冊数	13,000冊	13,735冊
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨図書小冊子の作成等により、県立図書館における推奨図書の貸出冊数が13,000冊を上回った。</li> <li>・講座等の開催については、Web掲載による県内の学校図書館担当の教職員への周知やオンライン講座の開催により、参加者の利便性の向上を図った。</li> <li>・ジュニア司書養成講座や子ども読書研修会、幼稚園教諭・保育士のための絵本講座等を開催し、家庭・地域・学校等での読書活動を推進した。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(19) 文化財指定促進事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、学校教育や観光への活用を図るため、国指定等に向けた調査を推進する。			
[事業内容]	建造物、民俗、古文書等の調査			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,240			2,240
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	現地調査件数	27 件	28 件
	成果 指標	文化財指定件数	10 件	11 件
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>木造牛頭天王坐像および木造女神坐像（越前町八坂神社）、西福寺文書（敦賀市西福寺）の2件が新たに国指定重要文化財に指定された。</li> <li>専照寺御影堂附厨子1基（福井市専照寺）、絹本著色 沢村吉重像（高浜町）、十一面観音懸仏（おおい町伊射奈伎神社）などの9件が新たに県指定文化財に指定された。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(20) ㊦ 子どもの目と歯の健康プロジェクト事業			保健体育課	
[事業目的]	<p>生活習慣を見直すことを通して、視力低下の進行を遅くするとともに、トレーニングによって視覚機能の改善を推進する。</p> <p>正しい歯みがきの仕方を身につけることなどにより、むし歯予防を促進するとともに、二次検診の実施によりむし歯治療率を向上させる。</p>			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>視力低下の抑制や視覚機能を改善する取り組みを実施（ゼロ予算） 小学1、2年生に「生活習慣チェックカード」をデータ配信 各教室に「目の健康を守る3か条」を掲示し、「目のリフレッシュタイム」、「ビジョントレーニング」を実施</li> <li>むし歯予防の促進やむし歯治療率を向上させる取り組みを実施 15市町で二次検診を実施 モデル校10校（6市町）でフッ化物洗口を実施 小学1、2年生にリーフレットを配布（ゼロ予算）</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	5,269			5,269
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	目の健康に関する指導実施率(%)	100.0	100.0
		歯磨き指導実施率(%)	100.0	100.0
	成果 指標	視力1.0未満の小学生の割合(%)	37.9	—
むし歯のない（処置者を含む）小学生の割合(%)		78.2	—	4年度：75.5% 5年度：R6.11 公表予定
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動指標である指導実施率は、目・歯ともに目標を達成した。</li> <li>むし歯のない小学生の割合は、4年度は未達成であるが、県内のむし歯のない(処置者を含む)小学生の割合は概ね改善傾向にある。</li> </ul>			

I 学びを伸ばす（人材力）				
1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成				
(21) ④ 地域運動部活動体制整備事業				保健体育課
[事業目的]	令和5年度以降の休日の運動部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向け、スポーツ団体等の整備充実、指導者確保、参加費用負担への支援等を総合的に推進し、地域において持続可能な中学生のスポーツ活動の機会を確保することを目的とする。			
[事業内容]	・ 休日の部活動の地域移行に向けた市町の取組みを支援 コーディネーター等の配置 スポーツ活動の運営に必要な経費（事務局員人件費、指導者謝金等）への支援 経済的に困窮する世帯への参加費用負担の支援			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	30,340	20,090		10,250
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	地域移行に取り組む市町数 (市町)	14	14
	成果 指標	休日の活動を地域に移行した 部活動数(部活動)	152	176
[事業評価]	・ 5年度末までに、約1/4の運動部活動(176部活動/691部活動)が休日活動を地域に移行した。 ・ 引き続き事業を実施し、国が定める改革推進期間(5から7年度)における運動部活動の早期地域移行に取り組む。			

その他				
(1) こども歴史文化館展示事業				生涯学習・文化財課
[事業目的]	福井ゆかりの人物(先人・達人)の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。			
[事業内容]	・ 普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 ・ 発掘事業(調査研究)…未開拓の人物情報の調査研究 ・ 資料収集事業…実物資料の収集等 ・ 特集事業…企画展の開催			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	11,174		41	11,133
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	2回	2回
	成果 指標	利用者数	60,000人	42,246人 新型コロナ対策のための行動制限が大きく緩和され、令和4年度の約1.7倍となった。
[事業評価]	・ 特別展『地球のカケラがいっぱい』を開催し、ブック型標本を中心とする鉱物関係資料を展示した。あわせて、ふくいゆかりの先人として、日本近代鉱物学の祖とされる和田維四郎(小浜出身)ら鉱物学者を紹介した。 ・ これき人物シリーズ15絵本編④『新天地をめざして』を刊行し、県内の全小・中学校や図書館等に配布した。			

その他				
(2) ふるさと文学館事業			生涯学習・文化財課	
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。			
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の開催</li> <li>・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学講座等の開催</li> </ul>			
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	23,827		33	23,794
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績
	活動 指標	企画展開催回数	3回	3回
	成果 指標	入館者数	62,000人	76,405人
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季企画展「堀内誠一 子どもの世界」では、夏休みの家族連れの来館で賑わった。</li> <li>・秋季企画展「俵万智展 #たったひとつの「いいね」」は、初の福井での個展であり、斬新なインスタレーションを取り入れた展示で好評を博した。</li> <li>・俵万智氏、荒川洋治氏、宮下奈都氏などゆかりの作家講演会では、多くの参加者が、作家の創作活動・読書体験などに耳を傾けた。学校での出前文芸創作教室は、講師も生徒・教諭らの学校側も熱心に取り組まれた。</li> </ul>			

## VI 有識者からの意見

○ 福井大学大学院連合教職開発研究科長 木村 優

### 「子どもたちと教師たちのウェルビーイングの実現・保障・促進」

#### 教育の転換期におけるウェルビーイングへの気づき

私たちは現在、教育の転換期の真っ只中にいる。2021年1月の中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の提起を受けて、「新学習指導要領の着実な実施」「GIGAスクール構想の実現」「学校における働き方改革の推進」等による子どもたちと教師たちの「個別最適で協働的な学び」の実現が私たちに求められている。こうした学びの中で私たちが目指すのは、子どもたちと教師たち双方のウェルビーイングを実現し、より促進することである。

1990年代以降、国際学力テストの結果比較から起こったグローバル教育改革運動（GERM: Global Education Reform Movement）の中で、各国政府・自治体は少数教科に特化した基礎学力向上に教育上の努力・投資を集中させた（Sahlberg, 2021）。その結果、国家・地域間のランキング表にもとづく教育の比較競争が激化し、標準化テストへの対策が教育的営為を侵食していった。テスト対策、他校や他地域との学力比較、特定教科への焦点化、これらは教育を繰り返しのルーティンワークに転化し、不毛な競争のアリーナに落とし込み、学校における学びと教を偏らせる事態を招いた。しかし、皮肉にも、2020年の始まりに私たちを襲った未曾有のパンデミックが、私たちの目線を子どもたちの学力から別のもの、すなわちウェルビーイングへと移すきっかけとなった。

新型コロナウイルス感染症パンデミック禍で、実に多くの子どもたちが自宅での学習に困難を覚え、メンタルヘルスに重大な問題を抱え、利用可能なテクノロジーと支援リソースの不足に悩まされていた。また、教師たちもソーシャルディスタンスへの過剰な対応に疲弊し、メンタルヘルスに不安を抱え、テクノロジー活用にあたっての十分な支援を受けられないままだった。こうした困難な状況は、社会経済的に不利な学校と地域ほど顕著だった（OECD, 2020）。21世紀の四半世紀で、世界ではテロと闘い、グローバルな金融危機、未曾有の災害、そしてパンデミックが立て続けに起こった。こうした変動的で不確実で複雑で曖昧な世界をVUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）ワールドという。

このGERMとVUCAの狭間で私たちが気づいたことは、子どもたちと教師たちのウェルビーイングである。公教育をつうじて子どもたちと教師たちが関わり合い、より良く育ち合うには、どのような教育的営為が必要なのだろうか。福井県は「一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり～子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育の推進～」という基本理念を据えて、「目指す人間像」と8つの基本方針にもとづく種々の取組を通じて子どもたちと教師たちのウェルビーイングの実現に向けた挑戦を進めてきている。そこで以下、本報告書の「福井県教育振興基本計画（令和2年3月策定）に基づく施策の実施結果および達成目標の進捗状況」にもとづき、福井県及び福井県教育委員会の施策の取組と今後の課題を吟味する。

## 子どもたちと教師たちのウェルビーイングを促進する県の施策

方針1「学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成」にもとづき、まず超スマート社会・AI社会に備える教育DX推進の種々の取組が進められている。デジタルを上手く活用する能力は、私たちが生きる知識社会に必須のリテラシーであり、それを推進する施策の重要性がよく現れている。また、高校教育では子どもたちの学習環境の整備とともに、「合同発表会(高校生探究フォーラム)」、さらに方針4「国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成」における「全国高校生プレゼン甲子園」「オンライングローバルキャンプ」において、子どもたちの学校を超えた協働探究機会が精力的に創出されている。こうした一連の取組が子どもたちのさらなるより良い学びと経験に結びついていくことが期待される。

方針3「豊かな心、健やかな体の育成」における「休日の部活動の段階的な地域移行」の推進、方針8「新たな時代を見据えた教育環境の整備」における教育DX推進による教職員の業務改善と超過勤務の抑制等の取組は、教師ウェルビーイングを高める重要なイニシアティブである。福井県の教職員が生涯にわたってより良く働き、学び合い、育ち合える環境を整備する。これは、近年の教師不足という大きな課題に対応するための基盤づくりとして極めて重要である。また、方針2「適正や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進」、方針5「特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備」、方針6「ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成」、方針7「生涯にわたる学びの支援」にもとづきそれぞれ進められている子どもたちの学びを豊かにする種々の取組は、子どもたちの学校生活のウェルビーイングを広く高める挑戦でもある。これらの取組が示すように、福井県教育委員会が推進する施策は、教師たちと子どもたち双方のウェルビーイングの実現と促進が企図されている。

こうした取組の成果が、各方針の達成目標として示される調査結果で示されている。福井県の子どもたちの多くは新しいテクノロジーを活用しながら学びによく専心し、仲間や地域の人々とのかかわりの自己肯定感と自己効力感を育み、グローバルな視点を涵養しながら社会貢献意識を高めている。また、教師たちの多くも職務状況を改善しながら、子どもたちの主体的・対話的で深い学びを保障し、さらに、子どもたちとともに地域や世界に飛び出し、活動的で探究的な学びを推進していることがうかがえる。

## 子どもたちと教師たちのウェルビーイングをさらに保障し促進するために

以上、令和5年度に福井県教育委員会が推進してきた教育関係施策の各取実績の概観から、本県における教育関係施策が時代の変化と社会の要請に即して子どもたちと教師たちのウェルビーイングを促進するビジョンに沿って展開していることが示された。その証左として、各種調査の指標得点も令和4年度に引き続き概ね良好である。これから、福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況も良好であり、さらに教育として先進的な取組を推進する基盤を支えているものとして評価できる。

ただし、福井県の子どもたちと教師たちのウェルビーイングをさらに保障し促進するためには、その当事者である子どもたちと教師たちとの対話の場・機会をつくり、それを継続させていく取組をさらに推進していく必要がある。20世紀の教育は、「教育を提供する者」と「教育を受け取る者」という2項関係構造でその構造や関係施策がデザ

インされてきたのに対して、21世紀の教育は、「教育をともにつくる」という協働関係（Co-Agency）でその構造や関係施策はデザインされていく必要がある（OECD, 2019）。したがって、教育関係施策もまた子どもたちとともに、教師たちとともに、保護者たちとともに、地域の人々とともに、つくっていく必要がある。例えば、地域や学校教育のウェルビーイングを探究する世代・立場混合の教育ミーティングの機会、教育関係施策についてマルチステークホルダーで対話と議論を重ねる機会の創出等、私たち一人ひとりが当事者意識をもって取組に参画できる教育機会を生み出すことが可能である。私たちのウェルビーイングは個人や特定集団の活動だけで達成できず、コミュニティとネットワークを耕し繋ぐことではじめて達成できるものである。

学校生活に通じて子どもたちと教師たちがウェルビーイングを感じない（イルビーイングを感じる）のはどのような状況・場面だろうか？学校生活を通じて子どもたちと教師たちのウェルビーイングはどのような状況・場面で高められるだろうか？こうしたウェルビーイングの根源的な問いを思い浮かべた時に、私たちが創発できる施策と取組はまだ山積しているだろう。今こそ、子どもたちと教師たちのウェルビーイング、学校のウェルビーイングに目を向ける時である。GERMとVUCAの狭間で私たちが気づいたことを大事にして、これからの福井県教育委員会の教育関係施策がさらに発展していくことを期待するとともに、同委員会とこの挑戦に伴走できたらと願うところである。

#### 参考文献

- OECD (2019) 『OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』、OECD著、秋田喜代美他17名訳、  
[https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/concept-notes/OECD\\_LEARNING\\_COMPASS\\_2030\\_Concept\\_note\\_Japanese.pdf](https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/projects/edu/education-2040/concept-notes/OECD_LEARNING_COMPASS_2030_Concept_note_Japanese.pdf)  
(Accessed: 9<sup>th</sup> August 2024).
- OECD (2020) 『OECD 2020年新型コロナウイルス感染症パンデミックへの教育における対策をガイドするフレームワーク』 OECD著、木村優他7名訳、<https://www.fu-edu.net/sites/default/files/archives/2020/archive-20200423-13256.pdf>  
(Accessed: 9<sup>th</sup> August 2024).
- Sahlberg, P. (2021). *Finnish lessons 3.0: What can the world learn from educational change in Finland?* Teachers College Press.

○ 福井県PTA連合会 会長 笠松 照喜

## 「令和5年度福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」に係る意見について

日頃より、福井県教育委員会の皆様におかれましては、福井県内の全ての子どもたちの健やかな成長にご尽力いただいておりますことを深く感謝申し上げます。

近年の人口減少・少子化問題は地域のみならず、国レベルでの大きな課題と捉えられ、それに対する様々な施策が実施されるなど、子どもたちに係る業務は多忙を極めており、また、ICTに代表される技術の発展、グローバル化、価値観の多様化や多様性の理解など、教育現場における環境の目まぐるしい変化への対応も含めると、貴委員会の役割は多忙な中においても、その重要性は益々高まっており、それに対し確実に、誠実に向き合っている事実は、PTAとしても深く認識し、敬意を表するところでございます。

今回は、令和5年度の貴委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書（以下、「報告書」とさせていただきます）に係る意見ということで、僭越ながら意見を付させていただきます。

文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査では、本県の児童生徒は常に全国的に高いレベルの結果となっており、順位を競う調査では無いものの、常日頃の貴委員会の様々な取り組みの成果が表れているものと実感しています。自主性を重んじ、探究的な学びが求められる近年では、強制的ではなく学びが日常の楽しみとして身近に寄り添い、学ぶこと＝楽しいことが根底となる必要があると思います。実際に、報告書では、「授業が分かる児童生徒の割合」と「学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合」は、増減はあっても同様の傾向を示しており、学ぶ楽しさと学びの成果としての理解度に相関関係がみられ、貴委員会の取り組みは子どもたちを良い方向に導いていただいているものと感じています。

令和5年3月に策定された、福井県学校教育DX推進計画では、授業をはじめとした学校活動にICT機器を活用し、学びの進化と教職員の方々の長時間労働の改善を図るものとしています。タブレット端末は児童生徒1人に1台配備され、時間外勤務月80時間以上の教員の割合も減少するなど、その効果は報告書でも数値に表れています。しかしながら、近年のICT技術の進歩は目を見張るものがあり、今後は、更なる環境の整備とICT機器の効率的で効果的な活用が求められるものと考えられます。

具体的には、1人1台の端末配備は全国的にも整備率が高水準であり、学校では授業等にて様々な方法による機器の活用やソフト等教材が使用されている中、過去に整備した回線速度では今後更に進歩するであろう機器の活用方法やソフト等教材に追い付かない状況が見据えられ、国は、国策として推進するGIGAスクール構想の1人1台端末について、公教育の必須ツールとして更新を着実に進めるとともに、通信ネットワーク速度の抜本改善を図るとの方向性を示しています。端末の効率的・効果的な活用を実現するためにも、県内市町と連携し必要な予算措置を行い、国費を積極的に活用し遅れることなく環境整備・改善に取り組んでいただきますようお願いいたします。また、国のGIGAスクール構想では、教室での取り組み以外にも校務DXの推進を図るものとしています。

次世代の校務 DX として、学習系と校務系のネットワークの統合、校務支援システムのクラウド化、データ連携基盤の創出などにより、働き方改革の他にも大規模災害時の業務の継続性の確保などを実現するとのことですが、特に学校における FAX でのやり取りの慣行の見直しが求められています。FAX の過度な利用はせっきくのクラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害するものであり、FAX でのやり取りには相手があることから学校のみでの努力では実現が難しい部分もありますが、私たち PTA 等学校に係る機関も含めた取り組みを進めていければと思います。

同じく文部科学省が実施する、全国体力・運動能力、運動習慣等調査でも、本県の児童生徒は好成績であることが公表されており、報告書でもその傾向が示されています。地域性や比較的緩やかな時間軸、豊かな自然など、個人的には福井県の自然や県民性が根底にあるのではと思いますが、今後もスポーツに触れる時間や機会を可能な限り確保いただき、運動の得意不得意に関わらず、好きになる環境を維持していただきたいと思っています。また、文化系においても、県立音楽堂での本物の文化芸術の体験は特に様々なことに興味を示す世代にとっては非常に良い取り組みであると感じています。報告書では、「将来の夢や希望（目標）を持っている児童生徒の割合」が全体的に目標値よりも低く、中学校や高校ではここ 1、2 年の傾向としても低下していることが示されています。夢を持ちそれに向かって努力することは決して無駄にはならない、という言葉は多くの成功者が語っており、現状のテレビやインターネットでは体験できない音の厚みや深み、臨場感、演者の表情など、本物を実感できる機会を今後も増やしていただき、児童生徒の将来に向けて多くの可能性の気づきに繋げていただける事を期待します。

近年課題となっている休日の部活動の地域移行については、制度の発端、理由、目的の理解が全国的に共通認識されているものが無く、首都圏と地域での環境の格差、違いが考慮されていないのではと感じています。福井県内でも各地域での取り組みが進められていますが、受け皿の有無、公共交通機関や活動場所の充足度など背景や各種条件が異なる中、福井県の生徒が取り残されることのない制度の推進、舵取りをお願いいたします。

令和 6 年 3 月 16 日に北陸新幹線の金沢・敦賀間が開業し、福井県と東京都が直結されました。開業による効果は来県者数の増加や観光、飲食、宿泊、物産などの地域産業の振興などに及ぶ事は勿論ですが、一方では人の往来の負の面も及ぼします。ふるさと福井県で学んだ学生の首都圏への流出がますます懸念され、就職時等に人生の拠点としてふるさと福井県を選択肢として考慮するのか、ネガティブに考えれば更なる人口の減少が課題となります。私は、子どもたちには小学校に入学した段階から、自分の住む地域、通う学校などの良いところを見つけ、友達や家族と共有してほしいと考えています。貴委員会で実施されているふるさと福井に誇りや愛着を持ち、地域の魅力を発信できる人材の育成は本人のみならず、周囲の若者にもふるさと福井の良さの認識や、忘れていた記憶の甦りが期待されます。この事業に関しては、私が無知なのかもしれませんが、SNS 等での更なる発信・周知を行い、認知度を向上させていただきたいと思っています。

日常では、多くの子どもたちが一日の大半を学校で過ごしており、子どもたちの健やかな成長には学校で過ごす時間が大きな影響を与えます。子どもたちが学校でより良い時間を過ごすためには、学校で働く教職員の方々が笑顔で生き生きと働ける環境が必要であり、教職員の方々の職場環境の更なる改善は PTA にとって非常に大切な事項と考え

ています。近年の教職員採用試験出願者数や倍率の低下は、教員の未配置の増加にも繋がることから子どもたちのためには良い影響をもたらすものではなく、貴委員会においては選考の免除制度の導入や東京での第1次選考の実施、試験制度の変更など、様々な方法で教員採用試験の改善を実施されています。これらの取り組みが今後の受験者数の増加、質の向上に結びつき、結果、必要教員数の確保等現場の教職員の方々の業務改善、子どもたちの学びへの興味の増加、保護者の安心へと繋がることを期待しています。

福井県 PTA 連合会は社会教育団体として、子どもたちの健全な成長のために頑張る福井県内の会員の皆様に対し、必要な情報や学びの場の提供、各種支援を実施しています。また、子どもたちを取り巻く環境の改善は私たち大人の責務であり、少しでも多くの大人たちの賛同を得られるような取り組みも必要であり、PTA として子どもたちの健やかな成長を願い実現するために、学校や地域、貴委員会をはじめとした行政や議会と連携した取り組みと支援が不可欠であると考えています。近年の人口減少や少子化はすぐには解決できない課題であり、それに伴い発生する問題は増え続けるものと想定されます。しかしながら、児童生徒の健やかな成長に深く関係する教職員の方々の職場環境は常に良好な状態を保持すべきであり、福井県 PTA 連合会としても、貴委員会のこれまでの取り組みに対し賛同し敬意を表するとともに、今後の取り組みに対しても引き続き連携させていただきたいと考えております。